

# ふじのくに 静岡みなと通信

第33号  
2024.1.23



下田港全景(提供:下田市)

## ～目次～

- 静岡みなと通信「第33号」発行に寄せて(下田市長)..... 1
- 静岡県港湾振興会の活動報告..... 2
- 寄港ラッシュ!～県内港湾のクルーズ船受入状況について～ 3
- みなとニュース..... 4
- みなと自慢(熱海港)..... 11
- 港こぼれ話..... 13
- 港湾関係行事予定..... 15

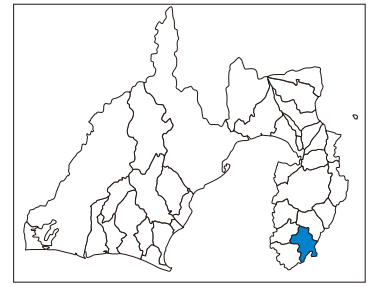


熱海海上花火大会(提供:熱海市観光協会)

# 静岡みなと通信「第33号」発行に寄せて



静岡県港湾振興会評議員  
下田市長 松木 正一郎



下田港は、幕末にペリー艦隊の来航で開かれた歴史ある港です。沖合の伊豆諸島や小笠原諸島を含む海域は良好な漁場で、特に金目鯛については水揚げ量日本一を誇ります。

下田港周辺では、毎年7月に「国際カジキ釣り大会」が開催されるほか、5月に「黒船祭」、6月には「あじさい祭」が開催され、賑わいの拠点にもなっております。

下田市は、世界に誇るべき「まちの財産」であるこの幕末開港の歴史を活かし、市制施行50周年にあわせ、下田港を中心とするみなとまちづくりを目的に「みなとオアシス下田」として登録し、グローバルCITY宣言を行いました。また、下田市で水揚げされたカジキを使用した下田市Sea級グルメ「カジキのまご茶漬」を令和5年10月に開催されたSea級グルメ全国大会に出品し、好評を博しました。

更に本年は下田港開港170周年の節目の年となります。開国のまち下田の歴史や文化を発信する事業に加え、スポーツ交流事業を推進し、市民とともに賑わいづくりや魅力づくり、人づくりにつなげていきます。皆様もぜひ下田市に遊びに来てください。

令和5年3月には、全長220メートル、幅10メートルで、沖に向かって伸びるL字形の「外ヶ岡物揚場」が完成しました。水揚げ能力の向上や、荒天時の船舶の避難所としての機能充実を期待しております。

今後も静岡県港湾振興会の皆様と共に港湾、海岸整備を積極的に取り組んでまいりますので、皆様方の一層のご支援、ご指導の程、よろしくお願いいたします。



黒船祭



カジキのまご茶漬



外ヶ岡物揚場



水仙まつり

# 静岡県港湾振興会の活動報告

## 令和5年度日本港湾協会定時総会に出席

令和5年5月24日(水)、福島県いわき市のいわき芸術文化交流館アリオスで日本港湾協会の総会が開催され、当振興会からは柳澤副会長(御前崎市長)をはじめ19名が出席しました。

総会では、港湾功労者表彰式が行われ、静岡県の港湾の振興に御尽力された、木村尚之様、清水浩彰様、古屋徹之様、村松正章様が受賞されました。

## 令和5年度静岡県港湾整備促進大会を開催

令和5年7月24日(月)、ホテルグランヒルズ静岡において、多くの港湾関係者や行政関係者等の御参加をいただき、港湾整備促進大会を開催しました。

難波会長(静岡市長)の挨拶の後、阿部県議会建設委員長、森副知事をはじめ来賓の方々から御挨拶をいただきました。

御出席をいただいた柳澤市長(御前崎市)、頼重市長(沼津市)、松木市長(下田市)、岡部町長(南伊豆町)、深澤町長(松崎町)、中野市長(焼津市)、山田副市長(富士市)、大石副市長(牧之原市)から「地域の声」と題して意見発表をいただき、大会の最後には、「静岡県の港湾整備の促進に関する要望」を満場一致で決議し、関係各方面に対して運動を展開していくこととしました。

また、大会に先立ち、名古屋大学減災連携研究センター 富田孝史教授を講師にお迎えし、「どうする港湾:気候変動影響等に対する港湾の防災・減災」と題して、御講演をいただきました。



難波会長(静岡市長)あいさつ



講演会の様子

## 経済と暮らしを支える港づくり全国大会に参加

令和5年10月19日(木)、東京の砂防会館において、日本港湾協会など、港湾関係5団体による実行委員会が主催する、「経済と暮らしを支える港づくり全国大会」が開催されました。

当振興会からは柳澤副会長(御前崎市長)、杉本副会長(牧之原市長)、松木市長(下田市)、岡部町長(南伊豆町)、深澤町長(松崎町)、星野町長(西伊豆町)をはじめ37名が出席しました。

大会では、来賓として多数の国会議員をお招きし、各地区の港湾所在市町村長の代表による港湾整備・振興に関する意見表明、港湾整備の推進に向けた決議が行われました。

大会に先立ち、令和5年10月18日(水)、ホテルグランドアーク半蔵門で東海地区港湾協議会主催による国会議員との懇談会が行われ、御出席いただいた市町村の代表が意見発表・要望を行い、港湾整備への支援を訴えました。

全国大会終了後は、県内選出の国会議員へ要望活動を行いました。

## 県外港湾視察研修を4年ぶりに実施

静岡県港湾振興会では、令和5年11月15日(水)、16日(木)の2日間、会員団体等から16名が参加し、愛知県の名古屋港、飛島ふ頭コンテナターミナル、三重県の津松阪港、四日市港の視察研修を実施しました。

名古屋港では、港務艇に乗船し港内を視察しました。物流や産業を支える各ふ頭の施設を洋上から眺めることができる貴重な体験となりました。飛島ふ頭コンテナターミナルでは、日本初の自動化コンテナターミナルの説明を受けました。364日、24時間稼働ターミナルは、少人数でも「安全・確実」な操作が可能となっています。

津松阪港の陸上設置型フラップゲート式可動防潮堤(陸閘)は、緊急時に人為操作なしでも自然の力を活用して開口部閉塞を可能とすることが特徴で、確実な作動と操作員の安全確保が両立されていました。



四日市港ポートビル展望展示室「うみてらす14」にて概要説明

四日市港では、地上90mのポートビル展望展示室から港内を一望した後、巡視船にてコンテナターミナルや物流センター、エネルギー関連施設等を視察しました。

各担当の皆様からの丁寧な概要説明をいただき大変有意義な研修となりました。



飛島ふ頭コンテナターミナル



陸上設置型フラップゲート式可動防潮堤(陸閘)

# 寄港ラッシュ！ ～県内港湾のクルーズ船受入状況について～

令和5年3月1日(水)、清水港に外国のクルーズ船「アマデア」がやってきました。コロナ禍を受け、日本全国で外国クルーズ船の受入を停止していましたが、このクルーズ船の受入は、受入再開の全国初事例となりました。クルーズ関係者の高い注目を集める中、「アマデア」は、雄大な富士山と地元の熱い歓迎を受け、華々しく入港しました。

コロナ禍で落ち込んだクルーズ船の県内港湾への寄港回数は、外国船の寄港再開を受けて、急激に伸びています。令和元年(コロナ禍前)の寄港回数が45回だったのに対し、令和5年は67回(令和5年12月1日時点)を数え、清水港を始め御前崎港、田子の浦港、熱海港、伊東港、下田港など県内各地へクルーズ船が寄港しています。御前崎港と田子の浦港では、初めて外国クルーズ船も受け入れました。

令和6年は令和5年を上回る寄港が予定されています。是非、クルーズ船を見に港へお越しください。

## 令和5年1月～12月県内港湾クルーズ船入港隻数 \*令和5年12月1日時点

	清水港	御前崎港	田子の浦港	熱海港	伊東港	下田港	初島	合計
邦船	4隻	—	2隻	2隻	1隻	1隻	1隻	11隻
外国船	53隻	1隻	2隻	—	—	—	—	56隻
計	57隻	1隻	4隻	2隻	1隻	1隻	1隻	67隻

外国クルーズ船初寄港

過去最多寄港数

■ コロナ禍後、国内第1号として清水港に寄港した「アマデア」。乗客の寄港地観光を楽しんでいる様子が見られました。(日本平にて)



■ 御前崎港に初寄港した外国クルーズ船「ウエステルダム」。同港初の外国船寄港となりました。県内のお土産等の販売や茶もみ等の体験ブースが岸壁に並び、多くの人で賑わいました。(令和5年4月11日)



■ 田子の浦港に初寄港した外国クルーズ船「スターブリーズ」。こちらも同港初の外国船寄港となりました。米国の自転車会社によるチャーター船であったため、サイクリスト達の姿も見られ、富士山を仰ぎながらサイクリングに出かけました。(令和5年4月17日)





# みなとニュース



## 御前崎港の久々生(くびしょう)海岸における環境保全の取組

御前崎港の久々生海岸は、港の築造とともに形成された海浜で、県の準絶滅危惧種のコアマモが群生し、また、タツノオトシゴに似た「オクヨウジ」や甲殻類の「ワレカラ」など少なくとも80種類の海洋生物が確認されるなど、良好な海岸環境が形成されています。

県は、この環境にいち早く着目し、同海岸で海岸清掃や自然観察会、自然体験活動に精力的に取り組んでいるNPO法人Earth Communicationと共同で、国土交通省と連携するジャパンプルーエコノミー技術研究組合に、群生するコアマモが1.0トンのCO<sub>2</sub>吸収量を持つブルーカーボンとして申請し、令和4年11月に認証を受けました。

認証を受けた1.0トンのCO<sub>2</sub>吸収量は、「Jブルークレジット」として、公募で複数の民間企業に購入して頂き、得た資金は、同海岸の環境活動に活用しています。

また、県は、令和5年1月にNPO法人Earth Communicationを県内で初めて、港湾法に基づく港湾協力団体に指定しました。港湾管理のパートナーとして、官民一体となって同海岸の環境保全に取り組んでいきます。



県内初となる「港湾協力団体」を指定



水中で自生するコアマモ

## 田子の浦港の浚渫土砂 更なる有効活用へ！

田子の浦港は、富士山からの多くの支川が合流する潤井川などの河口に位置し、毎年大量の土砂が港内に流入することから、航行船舶の安全確保を目的に、年間2万m<sup>3</sup>以上の土砂を浚渫しています。

浚渫した土砂は、脱水・分別による減容化を行い、公共事業の盛土材や海岸の養浜材などとして有効活用を図っていますが、土砂は継続的に流入するため、受入れ先の確保が課題となっています。

近年の実績から、脱水処理土の緑化基盤材としての有効性や、他発生材と混合することで第2種建設発生土相当の強度発現を確認したことから、有効活用の範囲が広がりました。

田子の浦港では、環境基準値を超える底質ダイオキシン類汚染が確認されましたが、公害防止対策事業により平成15年度から令和4年度の間すべての汚染底質の除去が完了しました。現在は、港内で発生する浚渫土砂は全て環境基準値を満たすものとなっており、今後浚渫土砂の更なる有効活用が期待されています。



吉田町尻防潮堤(堤防盛土材)



清水港日の出地区(緑化基盤材)



トライアルパーク蒲原(緑化基盤材)

## 三保内浜におけるエリアマネジメントの取組

清水港の三保内浜は、富士山世界文化遺産の構成資産である「三保松原」を背後に持つ、風光明媚で自然豊かな天然の海浜地で、一年を通じてマリンスポーツが楽しめる魅力的な海岸です。しかし、従来の管理手法では、施設の維持管理や清掃等のきめ細やかな対応が困難な上、イベントは単発になってしまうことから、魅力を活かした継続的な賑わいには至っていませんでした。そこで、県は公募により選定した民間事業者「三保内浜コンソーシアム」と「三保内浜エリアマネジメント業務 基本協定書」を締結。5年間の占用を許可し、砂浜周辺の管理と賑わい創出を同事業者に委ねることにしました。取組は令和5年4月からスタート。三保内浜の魅力を最大限に活かすべく、日々のパトロールや清掃、マリンスポーツ大会をはじめとしたイベントの企画、運営、誘致等、様々な活動を行っています。



業務対象エリア



ジュニアユースウインドサーフィン選手権



Miho Cup

## 2024年問題に向けて ～ RORO船見学会の開催

静岡県RORO船利用促進協議会では、令和5年10月1日(日)、2日(月)の2日間、荷主や運送事業者を対象としたRORO船見学会を開催しました。

物流の2024年問題が注目を集める中、解決手段の一つとして期待されるRORO船の役割やモーダルシフト推進の周知・利用促進を目的に、清水港に寄港する栗林商船株式会社(仙台・北海道航路)、川崎近海汽船株式会社(大分航路)、及び鈴木株式会社の協力により行いました。

実際に運行する船内の船倉や操舵室、ドライバーズ区画の見学の他、シャーシを使ってのデモンストレーション等を行ったほか、運航船社による航路サービス紹介や、対岸港の大分県による現地アクセス情報のプレゼンテーションなど盛り沢山の内容となりました。

当日は、県内だけでなく、中部横断自動車道の開通で便利になった山梨県からも参加があり、船社からの説明に真剣に耳を傾け、普段見ることができない様子を写真に収めていました。



操舵室見学



デモンストレーション

## 清水港/富士山静岡空港セミナーの開催

清水港と富士山静岡空港の利用拡大を図るため、静岡県、静岡市、清水港の港湾物流事業者等で構成する「清水港ポートセールス実行委員会」主催による「清水港/富士山静岡空港セミナー」が、令和5年8月1日(火)に甲府市で開催されました。

本セミナーは、静岡県の後背地である山梨県、長野県等を対象に、例年開催されています。令和3年8月に中部横断自動車道が山梨県まで全線開通し、清水港と甲府市の所要時間が約90分と大幅に短縮されたことで、より身近になった山梨県、長野県等の荷主企業に清水港の魅力、利用のメリットなどを説明し、清水港や空港の利用を呼びかけました。

一昨年までは新型コロナの影響で制限付きの開催となっていました。去年は、行動制限がなくなって最初の開催となったこともあり、第一部のセミナー、第二部の情報交換会ともに、大変盛況なセミナーとなりました。同様のセミナーは甲府市だけでなく、荷主企業が多い浜松市や東京でも開催します。

これからも、清水港の取扱貨物量の増加を目指して、官民一体となってポートセールスに取り組んでいきます。



清水港の説明



情報交換会の様子

## 御前崎港カーボンニュートラルポート(CNP)形成に向けて

「2050年温室効果ガス排出量実質ゼロ」を目指す本県では、港湾における「カーボンニュートラルポート」の形成を主要な施策の1つとしております。

そこで、国内外の多くの貨物を取り扱う国際拠点港湾の清水港、重要港湾の御前崎港及び田子の浦港では、官民一体となって議論を行い、温室効果ガスの削減目標や削減に向けた具体的取組を定めた計画を策定することとしています。既に清水港では、令和5年3月に「清水港カーボンニュートラルポート形成計画」を策定し、公表しております。

御前崎港では、令和5年7月27日(木)に国や県、民間企業など30団体からなる「御前崎港港湾脱炭素化推進協議会」を設立し、第1回協議会を開催しました。今後、本協議会で、御前崎港の脱炭素化に向けて実施すべき取組やロードマップ等について議論を重ね、「御前崎港港湾脱炭素化推進計画」を策定していきます。

世界に開かれた御前崎港が、脱炭素社会への貢献に加え、荷主や船社から選ばれる競争力のある港となるよう、官民一丸となって、カーボンニュートラルポートの形成に取り組んでいきます。



御前崎港(航空写真)



御前崎港港湾脱炭素化推進協議会の状況

## 駿河湾フェリー等を活用した海上輸送訓練を実施！

令和5年9月6日(水)に官民が連携して、駿河湾フェリー及び旅客船を活用した広域緊急支援物資輸送・被災者支援訓練を実施しました。駿河湾フェリーを活用した訓練は今回が初めての取組となります。

訓練では、伊豆半島西海岸の地域において台風や豪雨等の自然災害が発生し、陸路による支援が困難となる場合に備え、海からの支援体制を強化するため、松崎港を拠点とすることを想定し、静岡市が備蓄する緊急支援物資を積載したトラック、国土交通省の照明車及びポンプ車等の災害対策車両を清水港から松崎港に海上輸送しました。

また、断水を想定して、駿河湾フェリーからの給水活動訓練や、旅客船を活用し、堂ヶ島の被災者を移送した後、清水港への移送を想定し、駿河湾フェリーへの乗船訓練も実施しました。



駿河湾フェリーによる災害対策車両の海上輸送



訓練終了時に松崎町深澤町長より挨拶

## 第34回大井川港釣り大会

令和5年10月1日(日)、焼津市大井川港内北岸壁と東岸壁において、「第34回大井川港釣り大会」が開催されました。

大井川港釣り大会は、旧大井川町時代から毎年開催されているイベントで、今回が第34回目となります。今年の大大会では県外からの申込みもあり、多くの参加者で賑わいました。

当日は釣り競技が行われたほか、毎年恒例の初心者釣り教室や魚捌き教室、競技終了後には金魚すくいが開催され、子どもから大人まで楽しめるイベントが繰り広げられました。

また、ステージではやいづマリンレディによる公式イメージソングや地元ダンスパフォーマンスも披露され、大会をより一層盛り上げてくれました。飲食・雑貨などが並ぶレインボーマーケットも同時開催され、大いに賑わいました。



釣り競技中



初心者釣り教室



## 「第14回みなとオアシスSea級グルメ全国大会in沼津」が開催

令和5年10月28日(土)、29日(日)「第14回みなとオアシスSea級グルメ全国大会in沼津」が開催され、2日間で当初予想の7万人を大きく上回る約12万5千人が来場しました。

今大会では、過去最大規模となる全国33のみなとオアシスから、自慢のグルメが提供されました。来場者の投票により今大会のNo.1に輝いたのは「みなとオアシスもんべつ」のホタテステーキでした。

本大会中には、新たに設置した内港浮棧橋にて、帆船Ami号の乗船体験が実施されました。また、内港西側緑地では、「沼津自慢エリア地産物販ブース」にて市内の事業者が、沼津の農産物等や飲食物を販売し、多くの来場者が訪れ、大変な賑わいを見せていました。

※「Sea級グルメ」は一般社団法人ウォーターフロント協会の登録商標です。



会場の様子



内港浮棧橋 Ami号乗船体験

## 清水港 防潮堤とシンボル緑地お披露目

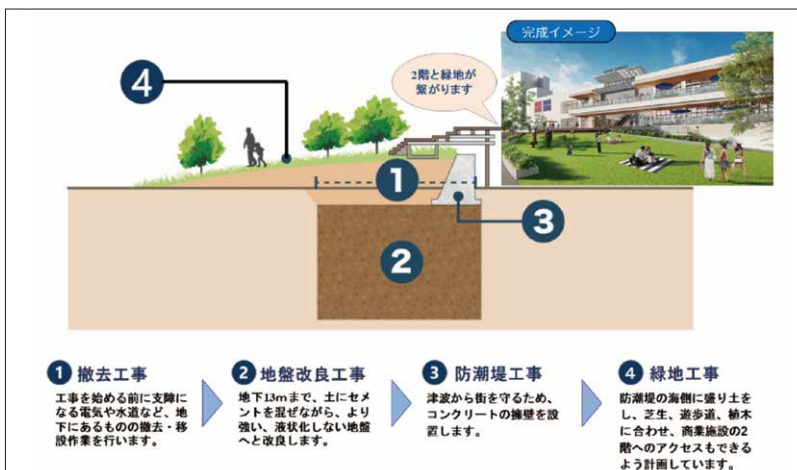
清水港の日の出地区において、令和5年11月10日(金)の民間商業施設(ドリームプラザ新館「PARK-side(パークサイド)」)のグランドオープンに合わせ、県が整備を進めてきた防潮堤とシンボル緑地がお披露目されました。

日の出地区は、富士山や港の美しい眺望に恵まれ、多くの市民や観光客に親しまれていることから、防潮堤の整備においては防災の観点だけでなく、景観や賑わいへの配慮も重要な地区となります。

防潮堤の整備にあたっては、計画段階から地元関係者や有識者等と何度も意見交換を行い、景観や賑わいと安全の両立を目指しました。

具体的には、防潮堤海側を盛土して緑地とすることで高さのある防潮堤を目立たなくし、隣接して建設される商業施設の上層階に繋げることで津波からの避難も容易となり、一体で魅力ある水辺空間の整備を行いました。

今後も、官民で連携し、景観や賑わいへ配慮した施設整備を進めていきます。



民間商業施設とシンボル緑地



オープン後の様子

## 浜名港 「みなと」と「浜名湖」の利用促進に向けた向島浮棧橋の整備

浜名港では、観光業や水産業の活性化を目標として、令和4年度から令和8年度の事業期間で地方創生港整備推進交付金事業を活用し、今切口の背割導流堤の改良、向島物揚場の改修、向島浮棧橋の整備を進めています。

このうち浮棧橋については、令和6年4月に開催される浜名湖花博20周年記念事業においても使用が可能となるよう、当初計画を前倒しし、令和5年度に浮棧橋の製作・設置工事を実施しています。

浮棧橋は浜名湖花博記念事業で浜名湖内の周遊で利用できるほか、毎年7月に浜名港で開催されている「ミナトリング」の周遊イベントでも利用される予定であり、今後様々な利用が期待されています。



令和5年度ミナトリングでの浮棧橋(レンタル)の利用状況



浮棧橋設置予定箇所(浮棧橋設置イメージ)

## 熱海港海岸 多賀地区 高潮対策事業実施中&緑地WS開催

熱海市南部に位置する熱海港海岸の多賀地区南工区では、波浪や地震による津波被害から背後地にある住宅や宿泊施設、緊急輸送路である国道135号等を防護するための高潮対策事業を進めています。

事業の実施に当たっては、海岸保全機能の向上と海岸利用の社会的ニーズに対応した親水空間創出のため、護岸背後に災害復旧事業で発生した土砂を埋め立てて緑地を整備する計画としており、現在、地域の方々とワークショップ(WS)を開催して緑地の将来像を検討しています。

多賀地区北工区については、平成23年4月に整備が完成しており、400mの人工ビーチの他に、緑地、駐車場、休憩所、足湯等が整備され、年間2.4万人(令和5年)もの海水浴客が訪れ県内外の人に親しまれています。定期的に地元観光協会による「ながはま特設市」が開催され、地域の特産物の販売や、日によってステージイベントなども実施され、令和4年度の特設市には1万人を超える来場者があり、年間を通して賑わいを見せています。

南工区についても、地域のニーズにあったインフラ整備を進め、地域住民に愛される親水空間となることが期待されています。



南工区の工事進捗状況



北工区の状況 (国土交通省清水港湾事務所撮影)

## 土肥港 フェリーターミナルの高質化

土肥港は、静岡市と伊豆市を結ぶ海上の「みち」である県道223（ふじさん）号を航路とし、「富士山駿河湾フェリー」により清水港と結ばれており、伊豆半島の海の玄関口として重要な役割を担っています。また、山梨・長野方面とも中部横断自動車道及びフェリーで直線的につながっており、広域的な観光ルート上に位置する結節点です。

このような中、中部横断自動車道の全線開通に伴い、甲信越方面からの観光客の増加が期待されており、土肥港ではこれに対応するための待合所の改修を進めています。また、地域の方々の利便性の向上に向けた、パーク＆ライド用の駐車場の増設（伊豆市施工）については、既に完了しています。

このため、静岡県としても、歩行者動線となるバリアフリー対応の園路やトイレ等を新たに整備し、増加する観光客に対応するための基盤整備を実施することにより、フェリーターミナルの高質化を図っています。



（整備後イメージ）

## 静岡県地震・津波対策アクションプログラム2023スタート

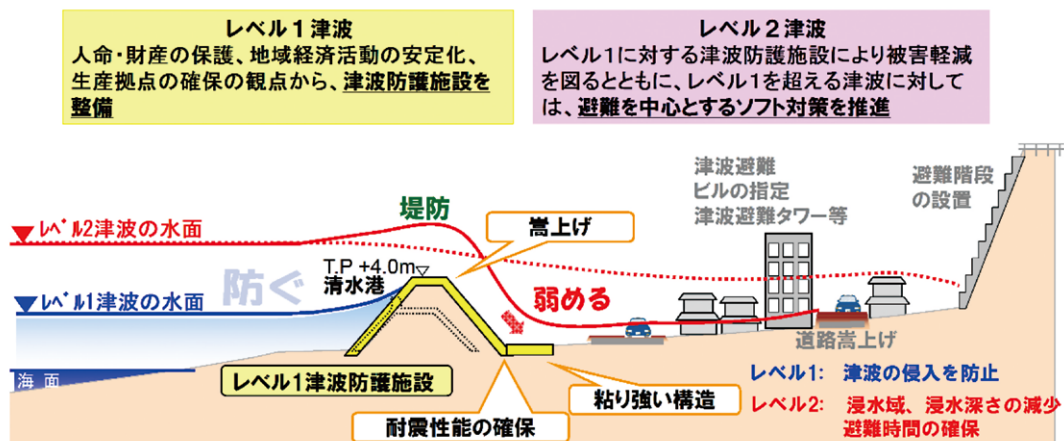
これまで港湾海岸における地震・津波対策は、第4次地震被害想定において推計された被害を8割減少させることを目標とした「静岡県地震・津波アクションプログラム2013」に基づき、津波防護施設等の整備を推進してきました。

「静岡県地震・津波アクションプログラム2013」は令和4年度に10年間の期限を迎え、ハード・ソフトを組み合わせた対策により、静岡県全体で想定犠牲者の約8割の減災を達成したところです。

これまでの10年間の成果及び課題を踏まえた令和5年度以降の新たな行動計画として、「静岡県地震・津波アクションプログラム2023」が令和4年度末に策定されました。発災時の被害減少に向け、引き続き防潮堤等の着実な施設整備を進めていきます。

### 津波対策の考え方（例：清水港の場合）

#### ◆安全な場所への避難等、避難対策の構築が基本



# みなと“自慢”

熱海市 都市整備課

## ～整備された美しい海岸線と 大迫力の花火が自慢の熱海港～

### 1.熱海港について

熱海港は、富士箱根伊豆エリアの海の玄関口として、年間宿泊施設利用者数が300万人に達する全国有数の温泉観光都市である熱海市の市街地に面し、年間60万人の伊豆大島及び初島行き旅客船の乗船客や、年間21万人の海水浴客等で賑わう観光港です。（※人数は令和元年度の数値です。）

### 2.熱海港湾の整備について

#### <ビーチ>

渚地区では、昭和56年から、海岸環境整備事業による人工海岸の整備が始まり、平成2年には、全長400mの「熱海サンビーチ」が完成しました。平成15年には、全国初となる砂浜ライトアップのための照明施設が整備され、昼夜を問わず、観光客が訪れるエリアになっています。

また、熱海市多賀地区においては、平成22年に人工海浜「長浜海浜公園」の北工区 延長400mが完成し、イベント広場・休憩施設を備える「うみえーる長浜」も整備され、年間4万人が訪れる観光拠点となっています。

多賀地区南工区では、津波対策としての護岸整備が進められており、埋立により新たな土地が生まれるため、その利活用に関する期待が高まっています。

#### <渚親水公園>

平成元年に作成された「熱海港コースタルリゾート計画調査報告書」をもとに、「地中海風リゾート」を意識したデザインが取り入れられた4つの工区からなる「渚親水公園」の整備が平成3年から開始されました。平成8年には第1工区、平成11年には第2工区、平成20年には第3工区が完成しています。

平成30年には、「熱海港湾エリア賑わい創出整備計画(案)」が作成され、熱海港及びその周辺地域の将来イメージがまとめられています。第4工区については、上記計画も取り入れ、現在、スーパーヨット誘致施設としての方針のもとに、整備が進められています。



熱海サンビーチライトアップ



多賀地区南工区



渚親水公園



第4工区

#### <周辺エリア>

渚親水公園の前面水域には、民間マリーナが併設され、熱海市街のリゾートホテル群と一体的な景観を形成しています。

和田磯防波堤を海釣り施設として開放している「熱海港海釣り施設」も整備され、釣り客に人気のスポットとなっています。

また、大型客船が接岸できる-7.5mの岸壁(通称ナナハン岸壁)が整備されており、にっぽん丸が、熱海海上花火大会開催時などを中心に寄港しています。



スパ・マリーナ熱海



熱海港海釣り施設



-7.5mの岸壁に入港するにっぽん丸

### 3. 熱海海上花火大会について

#### <花火大会のはじまり>

熱海海上花火大会は、昭和27年から続く歴史ある花火大会です。昭和20年代中期の熱海は、キティー台風や熱海駅前大火・熱海大火といった災害に相次いで見舞われ、市役所を含む多くの家屋が焼失し、街が焼け野原と化しました。その後、地元市民による懸命な復興のための努力が続き、その努力に報いるために昭和27年に打ち上げられた花火が始まりです。

#### <熱海海上花火大会の特徴>

熱海海上花火大会は大きな二つの特徴があると言われており、一つ目は、「花火の専門業者も日本一と絶賛する熱海の地形を活かした打ち上げ会場」です。熱海は3面を山で囲まれたすり鉢状の地形のため、海上で打ち上げられる花火の音が山に反響し、まるで大きなスタジアムのような音響効果があります。

二つ目は、毎回、花火大会のフィナーレを飾る「大空中ナイアガラ」です。銀色の花火が漆黒の夜空一面を埋め尽くし、まるで真昼のような明るさとなり、大音響とともに、見る者を圧倒する迫力を誇ります。

春・夏・秋・冬と年間を通じて開催が予定されており、夏季花火大会開催に合わせて、渚親水公園では、「熱海で遊ぶ花火で遊ぶ」が開催され、多くの飲食屋台の出店やイベントが開催され、花火大会をより一層盛り上げてくれています。

周辺施設では、各種イベントや海釣り施設など多彩な楽しみ方を味わえます。熱海港へ是非お越しください。



提供：熱海市観光協会



提供：熱海市観光協会

## 「清水港コンテナ船航行安全」



元静岡県御前崎港管理事務所長  
元静岡県交通基盤部港湾局港湾整備課長  
進藤 弘之

38年間の県職員勤務中に19年も港湾・漁港に携わらせていただき、その間、清水港、田子の浦港、御前崎港の3大港湾での勤務、港湾局での港湾計画改訂を始め様々な業務を経験させていただきました。

その中で、港湾企画室で経験した清水港新興津コンテナふ頭での船舶航行安全のことを振り返りたいと思います。

### 【はじめに】

新興津ふ頭はコンテナ輸送の荷役効率化、船舶の大型化に対応するため平成7年の港湾計画で位置付けられたコンテナ専用ふ頭です。

平成15年に水深15m、延長350mの第1バース(対象船舶6万DWT、船長290m)が供用されていたところ、平成17年9月、清水港管理局より10月17日に新興津コンテナふ頭へ入港予定の大型コンテナ船の入港許可が清水海上保安部から頂けないとの連絡がありました。

今回の船舶は9万DWT、船長320m、6,400TEU積と港湾計画を大きく上回り入出港時の安全に疑問があることがその理由でした。

清水港管理局では数年前に一度袖師ふ頭に入港したことがある船であるため、問題なく入港が認められると判断していましたが、今回は配船の見直しによる継続的な入港であることが問題となったものです。

しかし、コンテナ船は既に日本に向かっており清水港での積卸も予定されていることから、再度お願いしたところ、次の条件での入港を認めて頂きました。

- ・ 今回の入港は、スポット入港として許可する
- ・ 入港時のデータ(天候、波浪、風速、航跡など)を記録し提出すること

- ・ 継続した入港には、航行安全検討委員会\*で承認が得られること
- ・ 入出港の安全確認のため、操船シミュレーションを実施すること

\*学識経験者、海事関係者及び関係官庁からなる委員会

これらの要請に従って、航行安全を進めることとしましたが、上司からコンテナ船の大型化が進んでいるので将来に向けてもっと大きな船でのシミュレーションも行うよう指示がありました。整備が始まったばかりの第2バースが整備された時に備えた大型船(11万DWT、船長353m、6,600TEU積)と当時日本に寄港していた最大級船(11.6万DWT、船長370m、9,000TEU積)のシミュレーションも行うこととなりました。

### 【パイロットボートに乗船】

コンテナ船の入港は17日の夜10時頃で、私は「パイロットボート(PB)に乗船し、状況を視察」することになってしまいました。PBは水先人(パイロット)を沖合で待つ大型船まで送り届ける小型船です。

防波堤を出ると港内と違い、うねりがあり小さなPBは前後左右に揺れていましたが、水先人はコンテナ船から降ろされユラユラ揺れる縄梯子を掴むと暗闇の中スルスルと昇って行きました。水先人は外航船の船長を定年退職された方で、「僕らの仕事は命がけ」と仰っていたことに納得すると同時に“自分には無理”と思いました。PBでは本船を間近に見ながら水先人の操船・曳船への指示を無線で聞くなど、入出港時の緊張感を感じることができました。

小雨が降り、風も強い日でしたが、水先人の指示のもと無事接岸、荷役完了後出航し、私が帰路に就いたのは翌日の午前4時頃でした。

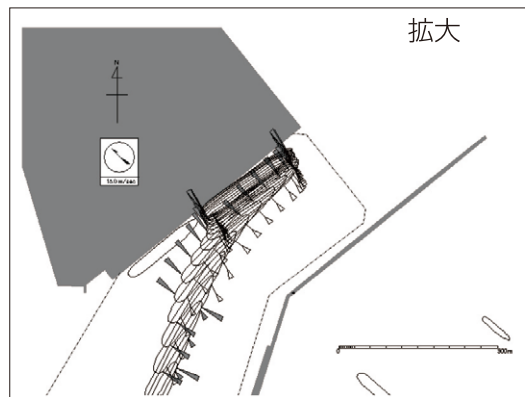
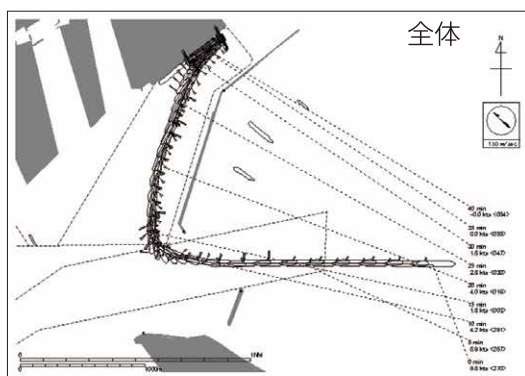
### 【操船シミュレーション】

操船シミュレーターは操船環境を再現するもので、操舵室に見立てた部屋は20畳ほどの広さで周囲に大型スクリーンがあり、清水港の景色が映し出されていました。風やタグボートの力、操舵、スクリューの操作を反映して、船の特性に合わせた挙動が再現出来る、当時国内に2つしかない複雑なシステムとのことでした。

ただ、操船する室内に計器は少なく、中央の演台のようなところに、舵輪、スロットルレバー、コンパスがあるだけのシンプルなもの、さらに清水水先人会長の指示で舵輪・スロットルを操作していたのは普段は事務をしているのではと思われる方で、少し不安を覚えました。

シミュレーションは風向き、風力などを変えながら行い、船舶3種類、全20ケースもあるため朝から夕方まで、3日間に亘って行われました。部屋には椅子などは無く、昼食時以外は立ちっぱなしで見学しましたが、不思議とあまり疲れを感じませんでした。

水先人が台風並みの風速15m(瞬間風速20m以上)という難しい設定条件でも操船技術を駆使して10万トン級、長さ300m以上の大型船を8cm/sec以下の速度で接岸させる様子はシミュレーションとは言え感動しました。



シミュレーション結果例 船長350m 風速15m/s  
入港時 第2バース完成時

### 【航行安全終了後】

3月の航行安全検討委員会で承認が得られるまでは、同型船の清水港入港は“スポット”という位置付けのまま認めて頂きました。ところが、正式に入港が可能となった1カ月後、航路再編で同型船の寄港がなくなってしまい、少々がっかりしました。

ところが、半年後には新たに10万DWTを越えるコンテナ船が清水港に寄港することになりましたが、コンテナ船の大型化を見越してシミュレーションを実施していたお陰でスムーズに入港が認められました。目前の船の入港許可に留まらず、更に大型の航行安全を行ったことが活きました。

その後も、10万DWT級船の寄港は続いており、清水港におけるコンテナ船大型化の契機となる出来事だったと思います。

### 【おわりに】

あれから20年ほど経った現在の世界最大のコンテナ船はなんと24,000TEU積、24万DWT、全長400mだそうで大型化は留まることを知らないようです。清水港では令和3年の港湾計画改訂で新興津ふ頭に10万DWT対応の水深16m岸壁が位置付けられており早期の整備が待たれます。現在更なるコンテナ船の大型化を先取りするため14,000TEU積で15万DWT級船のシミュレーションが進められていると伺いました。

コンテナ取扱個数が毎年50万TEUを越える日本有数の港湾である清水港が、これからも静岡県の国際海上物流拠点として発展することを願って私のこぼれ話とさせていただきます。



新興津ふ頭に接岸する大型コンテナ船

DWT(載貨重量トン)：船舶の最大積載量を示し、貨物船などに用いられる。一般的に使われる総トン数は船舶の容積を示す。

# 港湾関係行事予定

(令和6年2月1日～令和7年1月31日)

※日程は予定であり、諸事情により変更・中止となる場合があります。

日 程	内 容
毎年12月～3月	牡蠣小屋(湖西市 海湖館)
3月上旬	伊豆多賀わかめまつり(熱海市 長浜海浜公園)
4月13日(土)・5月2日(木)	春季熱海海上花火大会(熱海市 熱海湾)
4月13日(土)	いとう漁協水産祭(伊東市 伊東魚市場内) ※4月の第2土曜日開催
4月29日(月・祝)	大井川港朝市(焼津市 大井川港)
4月下旬	さがら草競馬大会(牧之原市 相良海岸)
4月下旬	御前崎シーサイドピクニック(御前崎市 マリンパーク御前崎)
4月～10月	体験企画「うなぎつかみ・さかなつかみ・釜揚げしらす」(湖西市 海湖館)
5月5日(日・祝)～6月30日(日)	地引網体験(伊東市 伊東海岸) ※5月、6月の毎週日曜日開催
5月17日(金)～5月19日(日)	第85回黒船祭(下田市 各会場)
5月25日(土)	ぬまづ港の街BAR(沼津市 沼津港ほか)
5月上旬	春のあたまビール祭り(熱海市 渚親水公園)
5月下旬	初島ところ天まつり(熱海市 Shima Terrace初島)
5月	なぶら祭り(御前崎市 海鮮なぶら市場)
5月	御前崎灯台まつり(御前崎市 御前崎灯台)
5月もしくは6月上旬	SHIMODA RENDEZVOUS2024(下田市内)
7月14日(日)	踊夏祭・トライアスロン大会(焼津市 大井川港)
7月20日(土)・7月21日(日)	浜名湖ミナトリング(湖西市 浜名港)
7月21日(日)	網代ベイフェスティバル(熱海市 網代港)
7月25日(木)～7月28日(日)	国際カジキ釣り大会(下田沖)
7月26日(金)・8月5日(月)・8月8日(木)・8月18日(日)・8月23日(金)	夏季熱海海上花火大会(熱海市 熱海湾)
7月26日(金)・8月5日(月)・8月8日(木)・8月18日(日)・8月23日(金)	熱海で遊ば 花火で遊ば(熱海市 渚親水公園) ※7・8月花火開催日と同日に開催
7月27日(土)・7月28日(日)	マリンフェスタ(下田市内)
7月上旬	御前崎海水浴場海開き(御前崎市 マリンパーク御前崎)
7月上旬	初島花火大会(熱海市 初島第二漁港)
7月中旬	田子の浦港海上安全祈願祭(富士市 田子の浦港)
7月下旬もしくは8月上旬	CABO VIKING CUP(下田沖)
7月	静波海岸海開き(牧之原市 静波海岸)
7月	さがらサンビーチ海開き(牧之原市 相良海岸)
7月	マリンスポーツフェスタ(御前崎市、牧之原市 御前崎マリナー)
8月2日(金)～8月4日(日)	第75回清水みなと祭り(静岡市 清水港)
8月4日(日)	宇佐美夏祭り打上花火(伊東市 宇佐美海岸)
8月4日(日)	第77回初島・熱海間団体競泳大会(熱海市 熱海湾)
8月4日(日)	沼津千本浜トライアスロン大会、チームケッズカップトライアスロン駅伝大会(沼津市 千本浜)
8月8日(木)	弓ヶ浜花火大会(南伊豆町 手石港)
8月8日(木)	「灯籠の流れ」打上花火(伊東市 伊東海岸)
8月9日(金)	「太鼓の響き」打上花火(伊東市 伊東海岸)
8月10日(土)	按針祭海の花火大会(伊東市 伊東海岸)
8月14日(水)	夏季納涼花火大会(下田市 下田港)
8月14日(水)	やんもの里花火大会(伊東市 八幡野港) ※開催予定
8月14日(水)	焼津海上花火大会(焼津市 焼津港外港)
8月15日(木)	川奈港いるか浜花火大会(伊東市 いるか浜)
8月22日(木)	伊東温泉管まつり花火大会(伊東市 伊東海岸)
8月上旬	静岡県知事杯石廊崎レース(下田沖)
8月上旬	Trans-Sagami Yacht Race(下田沖)
8月上旬予定	あたまビールまつり(熱海市 渚親水公園)
8月中旬	伊豆多賀海上花火大会&ビールフェスティバル(熱海市 多賀湾)
8月中旬	伊豆多賀温泉百八体流灯祭&ビールフェスティバル(熱海市 多賀湾)
8月中旬	網代温泉海上花火大会(熱海市 網代湾)
8月	御前崎みなと夏祭り(御前崎市 マリンパーク御前崎)
8月もしくは9月	さがら海上花火大会(牧之原市 相良海岸)
9月16日(月・祝)・10月19日(土)・11月4日(月・祝)	秋季熱海海上花火大会(熱海市 熱海湾)
10月上旬	第24回清水港興津フェア(静岡市 興津国際交流センター)
10月下旬	御前崎マリンパークマラソン(御前崎市 マリンパーク御前崎)
10月下旬	清水港フラワーフェスタ2024(静岡市 清水マリンターミナル)
11月17日(日)	田子の浦ポートフェスタ2024(富士市 田子の浦港)
11月上旬	清水港マグロまつり「清水・マグロ博2024」(静岡市 清水港)
11月上旬	熱海おさかなフェスティバル(熱海市 渚親水公園)
11月	御前崎市大産業まつり
11月	千本浜ファミリーマラソン大会(沼津市 千本浜防潮堤)
12月8日(日)	忘年熱海海上花火大会(熱海市 熱海湾)
12月21日(土)	とっておき冬花火大会(伊東市 伊東海岸)
令和7年1月1日(水・祝)	初日なぶらイベント(御前崎市 観光物産会館)
令和7年1月19日(日)	第59回伊東オレンジビーチマラソン2025(伊東市 国道135号バイパス)

編集  
後記

新春のお慶びを申し上げます。  
令和5年11月15日～16日に4年ぶりの県外港湾視察を実施することができました。御多忙中にも関わらず、御参加いただいた皆様には、この場をお借りしてお礼申し上げます。来年度も多くの方々の御参加をお待ちしております。(K.H.)

## 【港湾局インスタはじめました。】

静岡県交通基盤部港湾局の公式Instagramを開設しました。県内港湾・漁港の魅力、港湾に関わる仕事の魅力などを発信していきますので、ぜひフォローをお願いいたします!



#SHIZUOKA\_PORTANDHARBOR

当会では、会報誌面充実のため皆様からの港に関する情報やニュース・寄稿をお待ちしています。  
関係団体の活動、イベントPRなど…どんな些細な事でも構いません。詳しくは下記連絡先までご連絡ください。